

着物の独自性から紐解く 日本のデザイン

私たちは、世界に誇れる自らの民族衣装を、もっと見直すべきでは…

講師

横森美奈子 氏

ファッションデザイナー
ファッションアドバイザー

日時

2015年 **10月31日(土)**

講演会 16時30分～18時00分(開場:16時15分)

会場

デジタルハリウッド大学大学院 駿河台キャンパス
千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ アカデミア
TEL: 0120-386-810
<http://gs.dhw.ac.jp/utility/access/>



YOKOMORI Minako

桑沢デザイン研究所 非常勤講師
STRAMD 講師
エフエム東京 番組審議委員会 委員長

1949年東京都生まれ

1970年桑沢デザイン研究所卒(グラフィックデザイン専攻)

1972～1999年BIGI社にてDCブランド時代のMELROSE、HALFMOON、BARBICHEのチーフデザイナーを歴任

2002～2013年(株)ワールド Smart Pink デイレクター

2013年～(株)ジュピター・ショップチャンネル レギュラー

「横森美奈子のリアルクロゼット」にてMINAKO★YOKOMORI をデザイン企画・出演

2015年10月きもの文化最大のイベント「きものサローネin 日本橋」にトークショーで初参加(10月10日)

ファッションアドバイザーとしてはNHK Eテレ「団塊スタイル」出演。執筆は「捨てられない服の片づけマジック!」(小学館)、「横森美奈子の大人の着やせ帖」(宝島社)、11月に初の着物本「きものYOKOMORI流スタイル」(主婦の友社)を刊行予定など著書多数

私たちは、普段着ている“洋服”に対する一般的な言葉として“着物=和服”を用いています。本来着物とは、広義で「着るもの(衣服)」という意味で、言葉が詰まって「着物」になったと言われていますが、今や「Kimono」は、国際語として世界にも通用します。

その歴史は、遙か太古の昔に遡り、大陸の先進文化を取り入れながらも自国の美意識や文化的背景を折衷して、やがて独自の衣文化が確立されるに至ります。今日、着物は、冠婚葬祭や趣味的な存在として残る傾向が強いので、日本人の知恵と技術、美意識とセンスによって世界に誇れる民族衣装にまで昇華された着物を知ることは、日本文化の理解に繋がります。平安時代に確立された着物の原点から、戦国時代の勇壮で華麗なもの、織田信長をはじめとする戦国武将の華麗な感覚、そして開国後の西洋化との混在まで、本講座ではファッションデザイナーの横森氏を講師にお迎えし、こうした着物の変遷とこれらからデザインという観点から紐解いていただきます。

講座参加費 ● 一般 3,000円 ● 学生 2,000円
● 修了生 2,000円 ● 受講生 無 料

ご参加希望の方は、STRAMD公式ホームページよりお申し込みください。会場の都合により、定員となり次第締め切らせていただきます。

● ホームページからのお申し込み

STRAMD

検索

● お問い合わせ: ワールド・グッドデザイン・STRAMD事務局

☎ 03-6426-5788

主催: STRACOM(戦略経営デザイン人材育成講座《STRAMD》同窓会・事務局) 後援: デジタルハリウッド大学大学院 協賛: 桑沢デザイン研究所同窓会